

WACC計算式ガイド



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2025年11月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

WACC計算式ガイド

加重平均資本コスト（WACC）の概要

加重平均資本コスト（WACC）とは、企業が借入（負債）と株式（株主資本）で資金調達する際にかかるコストを、それぞれの構成比率で加重平均したものです。

WACCは「企業全体の平均調達コスト」を示します。

WACCが高いほど、資金調達に多くのコストを支払っている状態を意味します。逆にWACCが低いほど、効率的に資金を調達できていると判断され、企業価値は相対的に高く評価される傾向にあります。

WACC計算式ガイド

WACCの基本計算式

WACCは、以下の計算式で算出されます。各要素をステップごとに計算し、最後にこの式に当てはめます。

$$\text{WACC} = rE \times E/(E+D) + rD(1-T) \times D/(E+D)$$

- **rE**：株主資本コスト

- **E**：株主資本（株式時価総額）

- **rD**：負債コスト

- **D**：有利子負債

- **T**：実効税率

WACC計算式ガイド

WACC計算の3ステップ

WACCを算出するために、計算式を構成する各要素を3つのステップで計算します。

ステップ1：株主資本コスト（ r_E ）を計算する

株主が期待するリターン率で、CAPM（キャップエム）というモデルで計算するのが一般的です。

$$r_E = r_F + \beta \times (E_r - r_F)$$

- ・ r_F （リスクフリーレート）：国債の利回りなど、リスクがゼロに近い投資から得られるリターン率

- ・ β （ベータ）：市場全体が1%動いたときに、その企業の株価が何%動くかを示す感応度

- ・ E_r （期待収益率）：株式市場全体から期待される平均的なリターン率

WACC計算式ガイド

ステップ2：負債コスト（rD）と節税効果を計算する

金融機関からの借入金利や社債の利率など、負債にかかるコストです。支払利息は税務上の費用となり法人税を減らす効果があるため、実効税率（T）を考慮します。

$$\text{税引後負債コスト} = rD \times (1 - T)$$

- ・ **rD（負債コスト）**：支払利息の平均利率。
- ・ **T（実効税率）**：法人税、住民税、事業税などを合計した、利益に対する税金の割合。

ステップ3：資本の構成比率を計算する

資金調達全体のうち、株主資本と有利子負債がそれぞれどれくらいの割合を占めるかを計算します。

$$\text{株主資本の比率} = E / (E+D) \quad \text{負債の比率} = D / (E+D)$$

- ・ **E（株主資本）**：株価 × 発行済株式数で計算される株式の時価総額
- ・ **D（有利子負債）**：利息及び返済義務のある負債の合計額（借入金や社債など）